

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※成人看護学概論	1（15）	1	第1学期	教育主事
目 標				
成人期にある対象の特徴と看護アプローチの基本を理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP2、DP1、DP5、DP6、DP4の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 成人期にある対象の特徴 1) 成人の定義 2) 成人期の発達課題と関連する理論	講義	
2	2	3) 成人各期の特徴 ①心身の成長発達からみた視点 ②社会・文化的な背景からみた特徴 ③疫学的な視点からみた特徴	講義	
3	2	2. 成人期にある人の生活と健康 1) 生活からみた健康 2) 成人期の主な健康問題 ①生活習慣に関連する健康問題	講義	
4	2	②職業に関連する健康問題 ③生活ストレスに関連する健康問題	講義	
5	2	3) 健康を守り育むシステムの概要と動向 4) 健康保持・増進のための保健行動の指導	講義	
6	2	3. 成人期にある対象を理解するための看護アプローチ 1) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係	講義	
7	2	2) 成人の対象を理解する理論 ①コンプライアンスとアドヒアランス ②アンドラゴジー ③健康信念モデル	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	成人看護学総論 : 医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目		単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※成人看護援助論 I		1（30）	2	第1学期	教員 院内講師
目 標					
急性期から回復期にある成人期の対象と家族の特徴を理解し、生命の維持や健康の回復に向けた看護について学ぶ					
ディプロマポリシーとの関連：DP5、DP2、DP4の達成に寄与					
回	時間	授業内容	授業方法	備考	
1	2	1. 急性期・回復期にある対象と家族の理解 1) 定義と特徴 2) 患者と家族のニーズ 3) 患者の看護援助 4) 危機的状況 5) 治療の優先度	講義		
2	2	2. 急性期における主要症状：胸痛を示す対象への看護 1) 循環器系疾患（心筋梗塞）の患者の看護	講義		
3	2	2) 急性期における主要症状：呼吸困難を示す対象への看護	講義		
4	2	3) 急性心筋梗塞患者事例による看護展開	講義		
5	2	4) 急性期における主要症状：看護の実際	演習		
6	2	3. 心臓リハビリテーションの実際 急性期症状から回復期に向けた看護	講義		
7	2	4. 脳神経系疾患（脳梗塞）を持つ患者の看護 1) 脳梗塞の病態理解とフィジカルアセスメント	講義		
8	2	2) 急性期における脳卒中の症状と看護	講義		
9	2	3) 急性期の治療（t-PA治療、開頭術後の患者の看護）	講義		
10	2	4) 日常生活援助の実際 ①麻痺のある患者の援助（移乗、体位変換、寝衣交換）	演習		
11	2	5) 脳卒中リハビリテーションの実際	演習		
12	1	5. 急性期看護のまとめ	講義		
13	2	6. 急性期看護に必要な基礎知識と技術：安全管理対策を含む 1) 救命救急処置（一次・二次） ①心肺蘇生（具体的な方法と留意点） ②気管切開、急性中毒に対する対処 ③外傷、熱傷、骨折の応急処置（止血法を含む）	講義		
14	2	2) 事例のアセスメント （クリティカルの場合：心停止状態、ショック、熱中症）	講義 GW		
15	2	3) 気管内挿管介助 4) BLS	演習		
16	1	終講試験			
授業形態	講義および演習				
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする				
テキスト	臨床看護総論 : 医学書院 臨床外科看護総論 : 医学書院 成人看護学総論 : 医学書院 循環器 : 医学書院 脳・神経 : 医学書院 看護過程に沿った対症看護 : 学研 看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント : メディックメディア				
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である				

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※成人看護援助論Ⅱ	1（30）	2	第1学期	教員 院内講師
目 標				
慢性疾患の特徴、慢性疾患をもつ対象や家族の特徴を理解し、自分自身で症状マネジメントできるための看護について学ぶ				
ディプロマポリシーとの関連：DP5、DP2、DP4の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 慢性期にある対象と家族の理解 1) 慢性期の定義と慢性疾患の特徴 2) 患者と家族のニーズ 3) 患者の看護援助 4) セルフケアとセルフマネジメント	講義	
2	2	2. 行動変容を支援する技術 1) エンパワメント 2) 生き甲斐連結法 3) セルフモニタリング 4) ステップバイステップ 5) 行動強化法 6) リフレイミング 7) ピアカウンセリング	講義	
3	2	3. 慢性期にある肝硬変患者の看護 1) 肝硬変の症状に対する看護：フィジカルアセスメント 2) 肝硬変の治療に対する看護	講義	
4	2	4. 慢性期にある肝硬変患者の看護の実際 1) 行動変容を困難にしている原因のアセスメント 2) 行動変容を促す計画の立案	講義	
5	2	3) 指導場面の実際（食事指導）	GW	
6	2	5. 慢性期にある腎不全患者の看護 1) 慢性腎不全患者と家族の特徴 2) 慢性腎不全の症状に対する看護	講義	
7	2	3) 慢性腎不全の治療に伴う看護	講義	
8	2	4) 透析を受ける患者の看護	講義	
9	2	5) 腎移植を受ける患者の看護	講義	
10	1	まとめ	講義	
11	2	6. 慢性期にある糖尿病患者の看護 1) 糖尿病患者の動向 2) 糖尿病患者と家族の特徴 3) 糖尿病医療における看護の役割 4) 生活調整技術と生活支援技術	講義	
12	2	5) 合併症をもつ患者の看護	講義	
13	2	6) 食事療法による生活調整への援助 7) 運動療法による生活調整への援助	講義	
14	2	8) 薬物療法と生活調整への援助 ①自己血糖測定導入時の支援	講義	
15	2	②血糖測定・インスリン注射	演習	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	成人看護学総論 : 医学書院 消化器 : 医学書院 内分泌・代謝 : 医学書院 腎・泌尿器 : 医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※成人看護援助論Ⅲ	1 (30)	2	第1学期	教員 院内講師
目 標				
周手術期にある患者とその家族に対して合併症予防や回復の促進に必要な看護が理解できる				
ディプロマポリシーとの関連：DP5、DP2、DP4の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 周手術期にある対象と家族の理解 1) 手術療法の目的 2) 周手術期とは 3) 周手術期の看護 身体反応：炎症反応・生体侵襲・サイトカインなど 精神反応：ストレス、コーピング、危機介入など	講義	
2	2	2. 周手術期にある患者の看護 1) 術前患者の看護 ①意思決定の支援、インフォームドコンセント ②術前のアセスメント (不安のアセスメント、術前オリエンテーション)	講義	
3	2	②術前のアセスメント (術後合併症のリスクアセスメント)	GW	
4	2	③術中・術後合併症を予防するための看護 術前訓練・術前訪問・弾性ストッキング	講義	
5	2	③術中・術後合併症を予防するための看護 臍処置、除毛、清拭 (入浴) 消化管処置、飲水制限 麻酔前投薬 入室時の看護	講義	
6	2	2) 術中患者の看護 ①手術室の環境管理 (感染防止、安全管理) ②患者入室から退室までの看護	講義	
7	2	③麻酔導入・覚醒時の援助・モニタリング ④手術体位 (固定方法およびその影響)	講義	
8	2	⑤器械出し看護師の役割 ⑥外回り看護師の役割	講義	
9	2	⑦手術方法 (開腹・開胸・開頭・鏡視下) による影響と援助	講義	
10	2	3) 術後患者の看護 ①術後患者のアセスメント (フィジカルアセスメントを含む) ②術直後のモニタリング *疼痛管理 (術後鎮痛薬の投与方法：PCA法)	講義	
11	2	③術後合併症と予防 (術後出血、深部静脈血栓症、呼吸器合併症、消化器合併症、術後感染)	講義 GW	
12	2	④回復促進につながる看護 1) 早期離床への援助 (膀胱留置カテーテル・麻薬の管理を含む) 2) 疼痛緩和への援助	演習	
13	2	3) 創傷ケア (ドレッシング・ドレーン管理) 4) ボディイメージの変調をきたす治療を受ける患者の看護	演習	
14	2	⑤社会復帰にむけた看護 1) 術後の機能障害や生活制限への看護：計画立案	講義 GW	
15	1	2) 術後の機能障害や生活制限への看護：援助の実際	演習	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	基礎看護技術Ⅰ：医学書院 臨床看護総論：医学書院 臨床外科看護総論：医学書院 基礎臨床看護技術 (根拠と事故防止からみた)：医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
成人看護援助論Ⅳ	1（30）	2	第1・2学期	院内講師
目 標				
終末期にある対象と家族の特徴を理解し、緩和ケアの考え方を学ぶ。また、死にゆく人の心理過程を理解し、患者の身体的苦痛のみならずスピリチュアルペインを含む全人的苦痛に対する援助とQOLを高める看護について学ぶ。				
ディプロマポリシーとの関連：DP5、DP2、DP4の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 終末期および緩和ケアを必要とする対象と家族の理解 1) 終末期の定義 2) 患者と家族のニーズ 3) 患者の看護援助 4) 緩和ケアの定義	講義	
2	2	2. 緩和ケアに必要な基礎知識 1) 緩和ケアの現状と展望 2) チーム医療 3) 文化への配慮	講義	
3	2	3. 緩和ケア看護に必要な援助 1) 身体的ケア（がん性疼痛と症状コントロール）	講義	
4	2	2) 身体的ケア（がん性疼痛以外の症状コントロール）	講義	
5	2	3) 精神的、社会的、スピリチュアルケア	講義	
6	2	4) 緩和ケアにおける倫理的課題	講義	
7	2	3. 緩和ケア看護に必要な援助 1) 意思決定支援、死の受容過程	講義	
8	2	2) 意思決定支援（ACP）	講義 演習	
9	2	3) 緩和ケアの対象者の広がり	講義	
10	2	4. 看取りの看護 1) 臨死期の看護	講義	
11	2	2) 終末後期（予後数日）の看護	講義	
12	2	3) 死亡時の看護（死後の処置、エンゼルケア）	講義 演習	
13	2	4) 終末期を支える家族への看護	講義	
14	2	5. ケーススタディ（死が近づいた患者と家族への関わり）①	講義 GW	
15	1	5. ケーススタディ（死が近づいた患者と家族への関わり）②	講義 GW	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	緩和ケア : 医学書院 臨床看護総論 : 医学書院			
その他				

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※成人看護援助論V	1 (30)	2	第2学期	教員 院外講師
目 標				
感染症および神経・筋難病、自己免疫疾患を持つ患者に対する看護について学ぶ。				
ディプロマポリシーとの関連：DP5、DP2、DP4 の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	課題
1	2	1. 感染症・難病をもつ患者の看護 1) 呼吸器系の感染症患者の看護 (1) 慢性呼吸器疾患の患者の看護 ①患者の特徴 ②看護の特徴	講義	
2	2	(2) 結核患者の特徴 ①患者の特徴 ②看護の特徴 (結核薬DOTS)	講義	
3	2	2) 神経・筋難病患者の看護 (1) 筋ジストロフィー患者の看護 ①患者の特徴 ②看護の特徴	講義	
4	2	③QOL維持に向けた看護	講義	
5	2	(2) 筋委縮性側索硬化症 (ALS)、パーキンソン病患者の看護 ①患者の特徴 ②看護の特徴	講義	
6	2	③在宅療養に向けたアセスメント	講義	
7	2	2. 自己免疫疾患を持つ患者の看護 (1) 自己免疫疾患とは 1) 膠原病とは 2) 膠原病の患者の看護 (全身性エリテマトーデス：SLE) ①患者の特徴 ②病状と病態生理	講義	
8	2	3) SLEの症状に対する看護 ・全身症状 ・皮膚症状 ・関節症状 ・神経症状	講義	
9	2	4) SLEの検査・治療に伴う看護 ①SLEの診断・検査 ②ステロイドパルス療法を受ける患者の看護 (副作用に対する看護)	講義	
10	2	5) SLE各期における看護 ①急性期 (発症) ②回復期	講義	
11	2	③急性期 (再燃期) ④ 慢性期 ⑤療養の場と看護の特徴	講義	
12	2	(2) 内分泌機能障害のある患者の看護 1) 甲状腺疾患の看護 ①甲状腺機能障害とは ②症状と治療 ③看護の特徴	講義	
13	2	2) 病期や機能障害に応じた看護 ・甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症 ・甲状腺癌、下垂体腫瘍	講義	
14	2	3. ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染症の看護 1) HIV 患者/AIDS の看護①	講義	
15	1	2) HIV 患者/AIDS の看護②	講義	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	呼吸器 : 医学書院 内分泌・代謝 : 医学書院 脳神経 : 医学書院 アレルギー 膠原病 感染症 : 医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			